

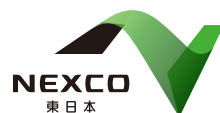


地域をつなぎ 地域とつながる

NEXCO東日本レポート2020

CSR BOOK

あなたに、ベスト・ウェイ。



高速道路を通じて地域社会の発展と暮らしの

NEXCO東日本グループは、
東日本地域における高速道路の
管理事業、建設事業、サービスエリア事業および
高速道路関連ビジネスを行っています。
今後も、地域・国・世代を超えた持続可能な社会の実現に向けて、
「つなぐ」価値を創造し、
あらゆるステークホルダーの皆さまに貢献する企業として
成長してまいります。



高速道路事業



管理事業



建設事業



営業延長
3,943km



インターチェンジ
444カ所



スマートIC
57カ所

関連事業



サービスエリア事業



高速道路関連ビジネス



サービスエリア・パーキングエリア
328カ所

(うち、商業施設有198、商業施設無130)



急速充電器
150カ所

向上を支えています

グループ経営理念

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

高速道路の効果

地域社会の発展

暮らしの向上

日本経済全体の活性化



NEXCO東日本グループが全事業を通じて貢献する主要なSDGs目標



NEXCO東日本グループは、国連が策定した「持続可能な開発目標 (SDGs)」を支持し、高速道路事業を通じて社会的課題の解決を推進することで、世界の持続可能な発展を目指しています。

快適な高速道路空間を提供し、 交通安全に取り組んでいます

■ 安全走行のための日常管理

NEXCO東日本グループでは、高速道路を安全に走行できるよう、日常的に点検や清掃作業を実施して、いつでも安心してご利用いただけるよう計画的に道路の補修を実施しています。

また、冬季の気象条件が厳しい地域を多く管理するため、大雪が予測される際には、広域的な応援体制を構築し、除雪機械を集中的に投入するなど除雪能力の強化に取り組んでいます。



舗装補修作業



橋梁の打音点検



ETC設備点検(アンテナ点検)



のり面の草刈作業

■ 交通安全・逆走防止対策

交通事故の防止のため、過去の交通事故の発生状況を分析し、急カーブ区間の注意喚起、速度抑制、車線逸脱防止などのために、さまざまな交通安全対策を実施しています。

特に、高速道路の逆走は重大な事故につながることから、正しい進行方向を示す看板の設置などの逆走防止対策を推進しています。



ランプ合流部の逆走対策

■ 交通巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞などの交通状況、落下物による道路状況・異常気象状況などの情報を収集しています。また、異常事象が発生した時には現場に急行し、落下物排除や事故対応を行うため、日頃の訓練も重要になります。

落下物などの処理数	約101,000件
交通管理巡回距離	約23,500,000km
(2019年実績)	(地球約1周半/日)



規制訓練の様子



現場対応の様子

技術力の向上と継承のために 進化した技術で社会に貢献します



■ SMH導入によるイノベーションの実現

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)とは、高速道路の長期的な「安全・安心」の確保のために、ICTやロボティクスなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を飛躍的に向上させるプロジェクトです。

今後、交通や施設管理などの他の分野への展開、AI分析/画像解析/ロボティクスなどの最新技術の導入に取り組むなど、継続的に発展を目指します。

ICT技術を活用したSMHツールは、情報の収集や管理、資料作成の自動化などの徹底した現場作業の省力化および効率化を図り生産性を向上させます。



紙の資料を確認していた会議から、大型画面に表示されたデータを思考・検討する会議へ

■ NEXCO東日本 総合技術センターの整備

現場経験を補い構造物の劣化メカニズムや技術の変遷などの理解を深めるための体験・体感型研修の実施や、AIやICTなどの先端技術を活用した研究技術開発に取り組むための施設として、「NEXCO東日本 総合技術センター」を整備し、運用を開始しました。



橋梁床版の実物供試体

4つの取組み

さまざまな技術課題に対応できる「技術者育成」、災害時や緊急事象発生時の「エキスパート支援」、AIやICTなど先端技術を活用した「研究・技術開発」、安全を最優先とした高速道路事業の推進のための「安全教育・啓発」に取り組みます。

技術者育成



TRAINING

研究・技術開発



RESEARCH & DEVELOPMENT

エキスパート支援



EXPERT SUPPORT

安全教育・啓発



SAFETY EDUCATION

24時間・365日の安全・安心を永続的に提供します

■ 高速道路リニューアルプロジェクト



高速道路がこれからも社会基盤を支える日本の大動脈としての役割を果たしていくために、道路構造物の大規模更新・修繕事業を行っています。

新技術の採用や、移動式防護柵 (Road Zipper System) を活用した柔軟な交通運用などの渋滞対策により、お客さまへの影響を最小限にすべく努力していきます。



橋梁の床版取替

高速道路リニューアルプロジェクトで実施する工事の例



床版の取替



桁の補強



床版防水層施工



インバート設置



グラウンドアンカー施工

■ 自動運転などへの取組み

自動運転車に向けた合流支援サービスの共同研究への参画などを通じて、自動運転などのイノベーションに対応した高速道路空間の整備に向けて必要な研究・技術開発を進めます。



(出典：国土交通省 国土技術政策総合研究所)

■ 発展途上国のインフラ整備への参画

2010年にインド駐在員事務所を開設以来、これまで現地の有料道路運営事業への参入などに携わってきました。

2019年11月には、インドで培った経験をさらに活かすため現地法人「E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED (ENI)」を設立し、当社グループの持つ高い技術とノウハウをインドの道路事業へ活用していきます。



インド現地法人設立

地域と地域をつなぎ、地域とともに成長します

■ 東日本最大級のサービスエリア「Pasar蓮田」誕生

2019年7月にリニューアルオープンした東北道「Pasar蓮田」では、当社の高速道路で初となる生鮮品を扱う「旬撰市場」や、地元生産者の農産物を取り扱う直売コーナーなどバラエティ豊かなサービスを提供しています。

また、一般道側にも駐車場を設け、蓮田駅とのシャトルバスを運行し、高速道路を利用されるお客さまだけでなく、近隣地域の方々にもご利用いただけるよう利便性を高めています。

さらに、災害発生時に備え、井戸やヘリポート、防災倉庫を整備し防災拠点としての機能も持ち合わせています。



生鮮品がそろう旬撰市場



蓮田駅とを結ぶシャトルバス

■ 東日本大震災からの復興に向けて

東日本大震災からの復興・創成期間内の完成に向けて、常磐道の暫定2車線区間の4車線化工事を進めています。

また、既存の高速道路の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため、地方自治体と協力し、地域活性化IC・スマートICの整備を進めています。



常磐道 常磐双葉IC開通式典

■ 地域のショーウィンドウ化

SA・PAでお客さまに快適に利用していただくため、お客さまとのコミュニケーションツールの拡充などの基本的なサービスと、接客レベルの向上に取り組むとともに、地域産品の発掘やそこでしか味わえない料理を提供するなど、地域の魅力を発信する「地域のショーウィンドウ化」に取り組んでいます。



地域産品応援フェア
(関越道 越後川口SA(下り線))



E-NEXCO野菜市場
(関越道 赤城高原SA(上り線))

さまざまなパートナーシップを推進します

■ 自然災害への対応

NEXCO東日本グループでは、台風15号および台風19号で被災した地域への復興支援を実施しています。台風15号による千葉県内の大規模停電・断水には休憩施設などにおいて電源と水の提供を行い、また台風19号では被災した地域において決壊した河川の応急復旧や浸水した一般道の路面清掃などを行いました。



河川決壊箇所の応急復旧支援
(壬生町内)



道路清掃支援(水戸市内)

昨今の日常化、激甚化する災害に備え、災害対応力の強化に努めています。

大規模災害発生時に緊急交通路を確保し、被災地の救急救命活動や復旧復興活動などに貢献するために、関係機関との合同訓練を実施しています。また、高速道路の重要箇所ののり面や排水機能を強化し、耐災害性の向上を目指します。



関係機関との合同訓練
(フードコートの防災拠点本部活用)



関係機関との合同訓練
(自衛隊連携訓練/新発田駐屯地)

■ 地域に対する技術支援

道路橋の維持管理に関する知識やノウハウを活かし、オーバブリッジの点検業務および損傷診断結果を踏まえた補修計画の立案や補修工事の受託、橋梁点検見学会の開催などを通じ、技術者不足などの課題を抱える自治体のインフラ維持管理をサポートしていきます。



橋梁点検作業車などによる
跨道橋点検



橋梁点検見学会

新潟県長岡市



上信越道が全線4車線化され
さらに鮮度の良い状態で
お客様に商品の提供を

アクシアルリテイリング株式会社
専務取締役・執行役員 山岸 豊後 様

新潟県長岡市に本社を構えるアクシアルリテイリングは、「原信」「ナルス」「フレッセイ」のスーパーマーケットを運営している企業です。スーパーマーケットにとって商品の鮮度は美味しさに直結するため、物流センターから店舗へスムーズに商品を運ぶことが重要です。

2019年に上信越自動車道の全区間が4車線となったことで、渋滞の緩和や事故などが発生した際も通行止めに合わなくなりました。それにより安定した物流が確保され、センターから離れた店舗と近い店舗に商品が届く時間差も小さくなるなど、決まった時間に商品を届ける精度が目に見えて高まっています。

すべてのお客さまに優しいSA・PAのために

■ バリアフリー対応

SA・PAを快適にご利用いただけるように、ユニバーサルデザインを取り入れ、施設の段差の解消をはじめ、身体障がい者等用駐車場、車椅子や筆談ボードを設置するなど施設のバリアフリー化に取り組んでいます。

トイレでは、和式便器の洋式化を進めているほか、ベビーシートや小型手洗い器を備えた大型ブース、子ども用トイレやオストメイト対応（人工肛門または人工膀胱を保有している方のための流し台や手洗い場を設置）トイレの整備を行っています。



身体障がい者等用駐車場



大型ブーストイレ



キッズスペース
(東北道 蓮田SA(上り線))



おむつ替えスペースと授乳室
(東北道 蓮田SA(上り線))

■ 子ども・乳幼児スペースの整備

小さなお子さまやそのご家族が快適に高速道路をご利用いただけるよう、多くのSA・PAでおむつ替えスペースや授乳室の整備を行い、調乳用温水器を設置しています。

■ 高福連携の推進

農業と福祉の連携である「農福連携」から着想を得た高速道路と福祉が連携した高福（幸福）連携は、SA・PAの美化や植栽といった作業を協働し、障がいのある方の活躍の機会とすることで、高速道路を通じて地域社会の活性化に貢献することを目指す取り組みです。



高福連携



沿線の環境保全に取り組んでいます

■ 希少植物の保全

地形が改変される箇所において、希少植物が確認された場合は、工事前に類似した場所への移植を行っています。

また、保護する時期が発芽前の場合、種子を含む土壌を採取し、当社グループ施設において発芽・育成したのち、環境が類似する箇所への移植を行っています。



希少植物を育成した事例



移植の状況



発芽の状況

NEXCO東日本グループが進める CSR活動の姿

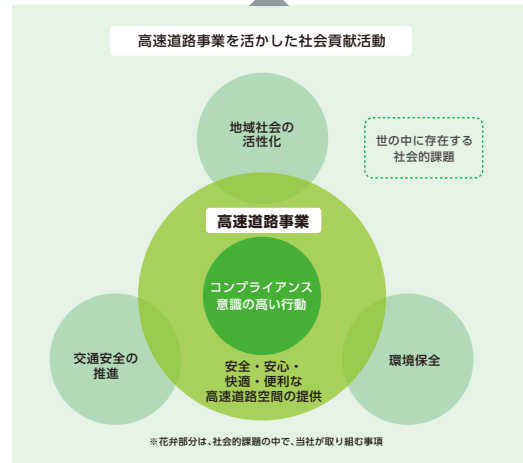
NEXCO東日本グループは、当社が取り組むCSR活動の姿と「CSR宣言」を2014年2月に策定し、経営理念および経営ビジョンの実現を目指して、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードにCSRの取組みを進めています。

当社は高速道路事業を活かしたCSR活動として、地域社会の活性化、交通安全の推進、環境保全に力を入れており、東日本各地で地域に根差した活動を行っています。

地域社会とともにある高速道路会社として、社会課題の解決を通じた継続的な地域支援を重視しています。

CSRキーワード「地域をつなぎ、地域とつながる」

グループ経営理念・経営ビジョンの実現



交通安全の呼びかけ（北陸道 栄PA）



北海道ハイウェイ探検隊（北海道支社）



ビオトープの見学会（圏央道 あきる野IC）

①	②
③	④
⑤	

<表紙の写真>

- ①建設現場の見学会（横浜環状南線）
- ②橋梁の打音点検
- ③常磐道の4車線化工事（吉田橋）
- ④ NEXCO東日本 総合技術センターでの研修の様子
- ⑤インドでの点検業務の様子

事業活動を通じて社会的責任を果たし、SDGsに貢献する



NEXCO東日本 代表取締役社長

小島 徹

NEXCO東日本グループは、高速道路のプロ集団として、「安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けすること」を社会的使命としています。今回のコロナ禍を契機に、人々の価値

観や社会の仕組みが大きく変化することが予想され、当社としても、そうした変化を的確に捉えながら、社会から求められる役割・使命を果たしていくことが極めて重要と認識しています。

当社は昨年春にSDGsという視点を経営計画に取り込みました。当社グループの全社員は、事業を通じたSDGsへの貢献を日々深化させ、誇りと高い倫理観、緊張感を持って業務にあたっていくとともに、情報を積極的に開示し、透明性を高めることによってコーポレートガバナンスにもつなげていきたいと思っています。

これからも、我々に課せられた使命を常に意識し、高速道路ネットワークの安定的・持続的な機能の確保に努め、お客さまの満足度向上と、地域社会の振興・発展に貢献していく所存です。

<冒頭の写真について>

冒頭の見開きで使用した写真は、NEXCO東日本グループが管理する長野道の麻績IC～更埴IC間において、撮影したものです。

2019年の台風15号・19号により、当社の事業エリアの各地は大きな被害を受けました。最も大きな被害を受けた地域の一つである長野県をはじめ、被災地域を応援し、復興を後押しする思いから、本レポートにおいて、この写真を選定しました (2020年5月撮影)



NEXCO東日本に関する詳細な情報はホームページにて公開しています。

コーポレートサイト

<https://www.e-nexco.co.jp/>

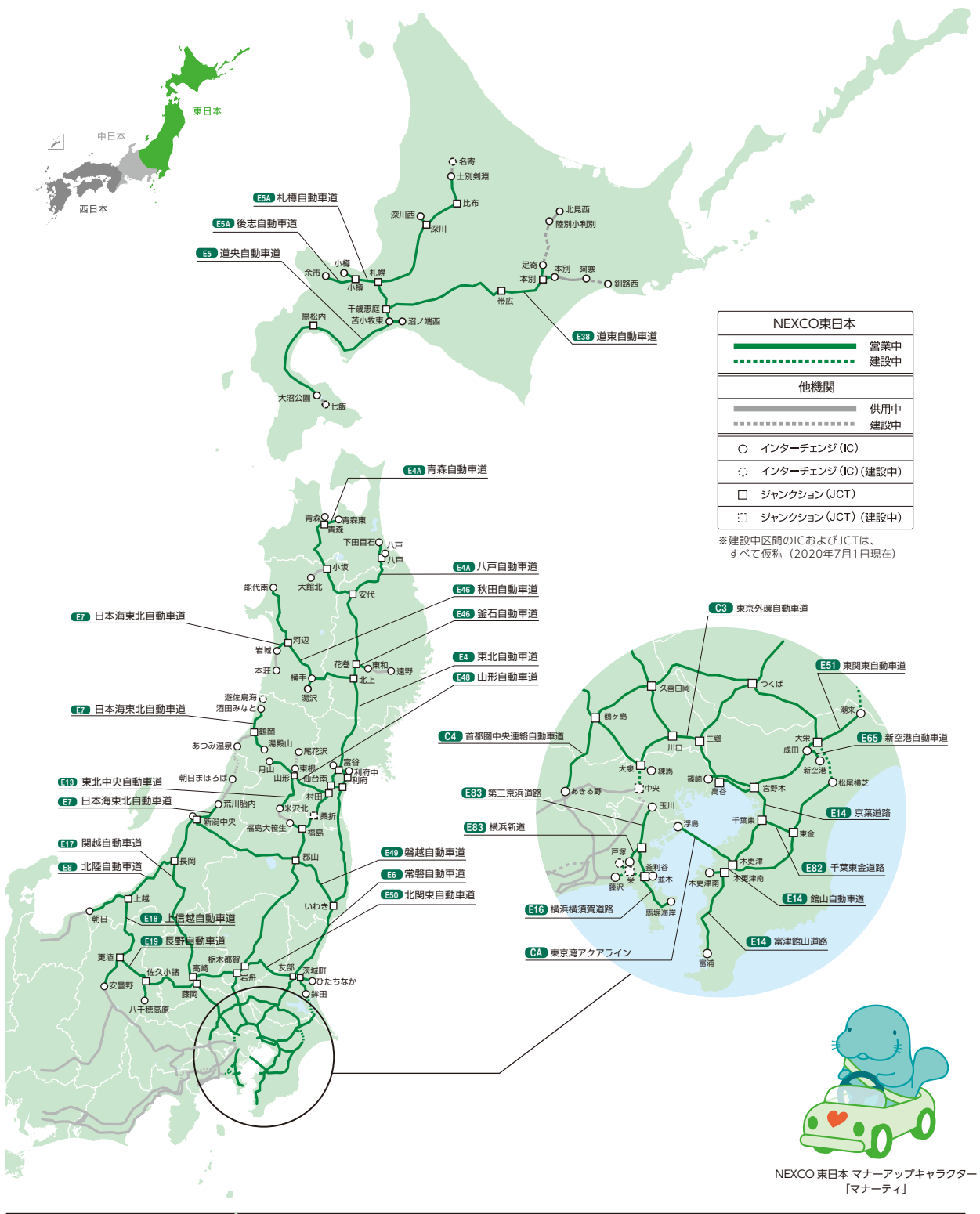
今後のレポートの改善・充実を図るために、お手数ですがアンケートにご協力いただきますようよろしくお願いします。

NEXCO東日本レポート2020 CSR BOOK アンケートフォーム

https://www.e-nexco.co.jp/csr_digest/form.php



NEXCO東日本の事業エリア



NEXCO東日本レポート 2020 CSR BOOK

発行: 東日本高速道路株式会社

〒100-8979

東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14階)

NEXCO東日本お客さまセンター 0570-024-024または03-5308-2424

<https://www.e-nexco.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮し、用紙にFSC®認証紙を、印刷インキに揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用し、印刷はアルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷」で行っています。また、読みやすさに配慮された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。

2020年7月 発行